

なかやまとりで
中山砦跡

所在地 新城市乗本地内
(北緯34度55分7秒 東経137度33分44秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成22年6月～平成22年9月

調査面積 2,830㎡

担当者 松田 訓・蔭山誠一



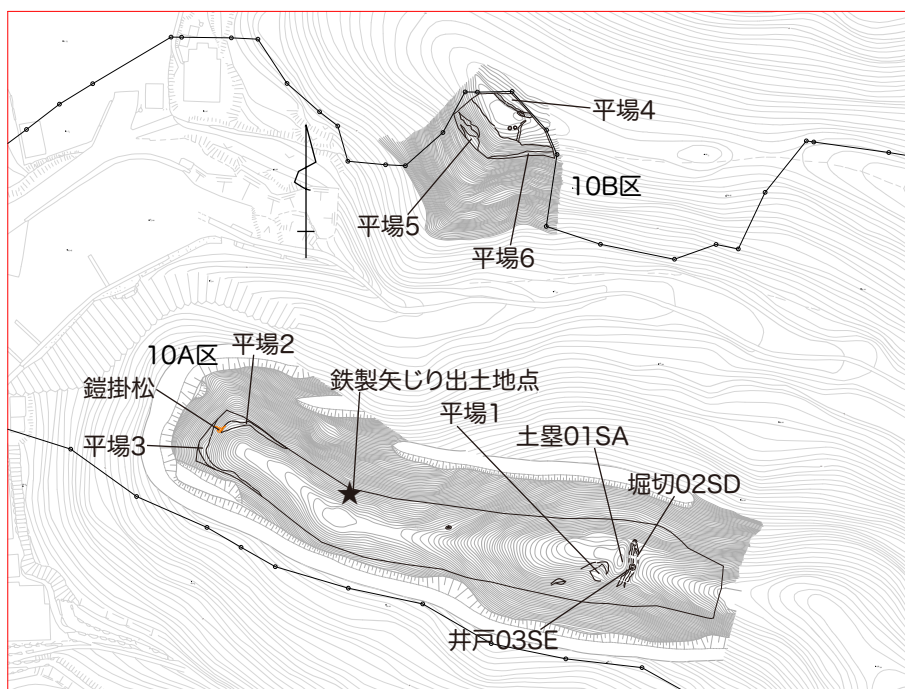
調査地点 (1/2.5万「三河富岡・三河大野」)

調査の経過 発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線の建設に伴う事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

立地と環境 本遺跡は新城市の東部に位置し、地形的には、豊川が北西から流れる寒冷川と北東から流れる宇連川の合流する地点の東岸にある天神山から派生する北西側尾根筋の先端に立地している。調査区内における遺構検出面は標高 100m から 120m で、下の谷からの標高差は約 40m である。

調査の概要 遺構は地表より深さ 0.05m ～ 0.20m の表土（腐植土）層直下の基盤層上面にて検出を行い、10A 区において土塁 1 基、堀切 1 条、井戸 1 基、土坑 1 基、平場 3 ヶ所と 10B 区において土坑 3 基、平場 2 ヶ所を確認した。戦国時代の遺構と考えられるものは、10A 区の東に位置する土塁 01SA と堀切 02SD があり、土塁 01SA は、堀切 02SD の底から約 2.0m の高さがあり、堀切 02SD の幅は約 4m あり、断面形は「V」字形になっていた。堀切は 1 度掘り直され、堀切の北端には地山の岩盤を削り出した陸橋が検出できた。

出土遺物では、鉄製の平根形鍬が 1 点を確認できた。基部は折れているが、長さ 10.4cm 以上、刃幅 2.0cm、刃の長さ 5.5cm あるもので、類例として愛知県清須市朝日西遺跡から 16 世紀末頃の井戸から出土した同形態の鉄製鍬がある。



遺構全体図 (1:2,000)

ま と め 今回の調査により、長篠・設楽ヶ原の戦いにおいて、武田方の乗本五砦の一つとして文献資料の記録から知られていた中山砦跡について、初めて戦国時代にさかのぼる可能性の高い遺構と当時の戦いに使用されたと考えられる鉄製鏃を確認し、記録に残る中山砦跡を実証できた。
(蔭山誠一)



中山砦跡から長篠城跡を望む(手前東側に堀切跡、東から)



10A区全景(背後の山が天神山、北西から)